

児童発達支援

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービス ドリーム前田		公表日		令和 7 年 3 月 1 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数やお子さんの発達段階に応じて、活動の内容やスペースなど工夫しながら行っている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		当日利用されるお子さんの発達段階、年齢に応じて職員の人数を調整している。個別対応を必要とするお子さんに応じて、職員を多く配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		階段には滑り止めや、手すりを設置している。また、写真やイラストなど視覚提示をし、わかりやすい環境を整えている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内清掃、玩具、椅子、机やドアノブなどの消毒を行っている。室内の換気を行ったり、空気清浄機を設置し、快適に過ごすことができるようにしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別活動を行うときに使用したり、クールダウンを行うための落ち着ける環境を作っている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員間で申し送り、振り返りを行っている。活動の目標設定や、関わり方の統一を行い、改善点などを話し合っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		集計結果を踏まえ、保護者からの要望に沿えるよう、業務改善を行っている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の申し送りや振り返り、ミーティング等で、職員間で意見交換を行い業務の改善を図っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修を毎年設けている。研修と実践の中で職員の資質の向上を図っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所のホームページにて支援プログラムの公表をしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		支援計画の見直しを行う時期に保護者の要望等を聞き取り、アセスメントシートを用いて、支援計画の作成を行っている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員の共通理解の下で、お子さんの様子や、必要な支援についての話し合いを行い、個別支援計画を作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で共有し、個人記録も作成し状況を把握できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートや個人記録を作成し、状況の確認を行っている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに即した支援項目を設定している。保護者との日々のやりとり、保育園や幼稚園、その他関係機関との連携を行い、支援項目を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当職員が活動プログラムを作成し、事前に児発管へ相談、当日の打ち合わせ等で療育職員間で共有し、療育を行っている。		

併	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	活動プログラムは児発管が作成し、担当職員がプログラムに沿った内容の立案を行っている。季節の行事等も取り入れる等工夫をしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	お子さんの発達に合わせた個別活動を実施している。個別活動でスキルの向上を目指し、繰り返し行うことで、集団活動の中でも力を発揮できるように組み合わせ支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援開始前には必ず打ち合わせを行い、当日の活動内容の確認、職員の役割分担、流れ等について職員間で共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	振り返りを行い、関わり方や療育内容について検討し、次の支援に活かせるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々の記録は必ず残し、支援の検証・改善に繋げている。また、保護者からの連絡事項ややり取り等も残すようにしている。	
	23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	3か月～半年に一度、また必要に応じて、支援計画の作成見直しを合わせて行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児発管や療育担当職員が参加している。	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保健センターや区役所職員、児童相談所や地域の相談室等と連携を行っている。日頃から情報共有を行っており連携した支援体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園等)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	お子さんのライフステージの切り替えの際には、移行先の保育園や幼稚園、小学校との情報共有を保護者の意向をお聞きした上で行っている。また、サポートファイルを活用して情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	サポートファイルで情報共有を行っている。保護者の希望に応じ、電話や訪問等でやり取りを行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターと定期的に情報共有を行ったり、機関支援の助言を受け、療育に活かしている。また、児童発達支援センター主催の研修にも参加している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	戸外活動等で他の地域の子どもたちと同じ空間で過ごすことはあるが、実際に関わる機会としては設けられていない。	地域行事に積極的に参加したり、地域のお子さんと活動できる機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	お子さんの様子をアプリや送迎時、電話等で情報交換を行ったり、必要に応じて相談を受けたりアドバイスを行っている。保護者と共通理解のもと支援できるように努めている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者の困り感や育児負担の軽減に繋がるように必要に応じて助言などを行なっている。茶話会や研修の開催、ブログ、ドリーム通信によって情報提供を行っている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時には必ず説明をしている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	個別支援計画を作成する際には、必ず保護者の意向を考慮し作成している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を作成後、保護者と面談や電話にて支援内容の説明を行い、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に面談を行い、助言、アドバイス等を行っている。また、保護者からの発信や要望、お子さんの状況に応じて随時面談や電話連絡を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会を開催し保護者の方々の交流の機会を設けている。就学児前相談会も実施している。茶話会の際に兄妹をお預かりし交流する機会を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者から申し入れがあった際には思いを汲み取り、迅速に対応できるように努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ドリーム通信、ブログ、インスタグラム等で日々の療育内容を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の文書などの取扱いには十分に注意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子さんや保護者の気持ちに寄り添い、共感しながら支援を行っている。	
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		町内会の活動へ参加し、地域住民の方と関わる機会があった。招待する機会を設けることはできなかった。	今後も地域の活動に参加したり、訪問行事等を取り入れていく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、職員間で周知している。毎月避難訓練を実施する中で、訓練内容の見直しや整備を行っている。ドリーム通信やブログ等を通して周知している。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に一度想定される災害において避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時には必ず細かな成育歴を聞き取り、その後発生したものに 대해서는 報告してもらうようにし、職員に周知、事業所内各部屋に掲示して確認できるようにしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーの有無の聞き取りを行い、事業所内で周知・提示している。契約後に発症したアレルギーに関しては、都度報告をしてもらっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、職員に周知している。計画に基づき点検や研修を行い、安全管理に努めている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を作成し、マニュアル化しているが、家族への周知には至っていない。	家族への周知や連携が図れるように取り組んでいく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を作成し、事業所内で共有している。事案があった場合には報告書にて全職員に周知し、再発防止に取り組んでいる。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、研修や虐待防止通信を発行している。虐待防止チェックリストで職員の関わりの困り感を把握するとともに関わり方の確認を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		支援計画にてやむを得ない身体拘束について記載し、保護者に説明を行い同意を得ている。また、拘束しない対応方法を常に検討している。		

放課後等デイサービス

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービス ドリーム前田		公表日		令和 7 年 3 月 1 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数によって、活動の内容や場所などについて工夫しながら計画している。人数やレベルに合わせて職員間で話し合いをして決めている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		当日利用されるお子さんの発達段階、年齢に応じて職員の人数を調整している。個別対応を必要とするお子さんに応じて、職員を多く配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		階段には滑り止めや、手すりを設置している。また、写真やイラストなど視覚提示をし、わかりやすい環境を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内清掃、玩具、椅子、机やドアノブなどの消毒を行っている。室内の換気を行ったり、空気清浄機を設置し、快適に過ごすことができるようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別活動を行うときに使用したり、クールダウンを行うための落ち着ける環境を作っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員間で申し送り、振り返りを行っている。活動の目標設定や、関わり方の統一を行い、改善点などを話し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		集計結果を踏まえ、保護者からの要望に沿えるよう、業務改善を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の申し送りや振り返り、ミーティング等で、職員間で意見交換を行い業務の改善を図っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		今後検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修を毎年設けている。研修と実践の中で職員の資質の向上を図っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所のホームページにて支援プログラムの公表をしている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		支援計画の見直しを行う時期に保護者の要望等を聞き取り、アセスメントシートを用いて、支援計画の作成を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員の共通理解の下で、お子さんの様子や、必要な支援についての話し合いを行い、個別支援計画を作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員間で共有し、個人記録も作成し状況を把握できるようにしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントシートや個人記録を作成し、状況の確認を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに即した支援項目を設定している。保護者との日々のやりとり、小学校や養護学校、その他関係機関との連携を行い、目標を共有し、統一した支援を行っている。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	担当職員が活動プログラムを作成し、事前に児発管へ相談、当日の打ち合わせ等で療育職員間で共有し、療育を行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	担当職員が活動内容の立案を行っている。内容が固定化されないよう、変更をしたり、柔軟に対応するように努めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	お子さんの発達に合わせた個別活動を実施している。個別活動でスキルの向上、練習を繰り返す行うことで、集団活動の中で力を発揮できるように組み合わせ、支援計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援開始前には必ず打ち合わせを行い、当日の活動内容の確認、職員の役割分担、流れ等について職員間で共有を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	振り返りを行い、関わり方や療育内容について検討し、次の支援に活かせるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々の記録は必ず残し、支援の検証・改善に繋げている。また、保護者からの連絡事項ややり取り等も残すようにしている。	
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	3か月～半年に一度、また必要に応じて、支援計画の作成見直しを合わせて行なっている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	4つの基本活動(自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供)を組み合わせ、活動計画を立て、支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	活動の中で選択式の活動を設けるなど、療育の中で自己選択する機会を設けている。自己決定することで子どものやる気を引き出したり、選択する力、自己表出する力もつくよう意識して展開している。	
	関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児発管や療育担当職員が参加している。
27		地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	保健センターや区役所職員、児童相談所や地域の相談室等と連携を行っている。日頃から情報共有を行っており連携した支援体制を整えている。	
28		学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○	送迎時や、電話等で情報の共有を行っている。また、プリント等で送迎の方法などを確認することができている。	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	サポートファイルで情報共有を行っている。保護者の希望に応じ、電話や訪問等でやり取りを行っている。	
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現在対象の児童はいないが、対象児童がいる場合は行っていきたい。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	児童発達支援センターと定期的に情報共有を行ったり、機関支援の助言を受け、療育に活かしている。また、児童発達支援センター主催の研修にも参加している。	
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	長期休み期間に児童会館へ交流を行うことができた。今後も児童会館や地域のお子さんと活動する機会を設けていく。	
33		(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○		あまり積極的に参加できなかった。機会があったら積極的に参加していきたい。
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	お子さんの様子をアプリや送迎時、電話等で情報交換を行ったり、必要に応じて相談を受けたりアドバイスを行っている。保護者と共通理解のもと支援できるように努めている。	
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者の困り感や育児負担の軽減に繋がるように必要に応じて助言などを行なっている。茶話会や研修の開催、ブログ、ドリーム通信によって情報提供を行っている。	

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時には必ず説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画を作成する際には、必ず保護者の意向を聞き取りを行っている。保護者の意向、お子さんの社会でよりよく過ごすことができることを考え、個別支援計画の作成を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を作成後、保護者と面談や電話にて支援内容の説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に面談を行い、助言、アドバイス等を行っている。また、保護者からの発信や要望、お子さんの状況に応じて随時面談や電話連絡を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会を実施し、保護者の方々と交流する機会を設けている。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの申入れ時には迅速に対応し、具体的に提案や説明をし了承を得るようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		ドリーム通信、ブログ、インスタグラム等で日々の療育内容を発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の文書などの取り扱いには十分に注意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		お子さんや保護者の気持ちに寄り添い、共感しながら支援を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		町内会の活動へ参加し、地域住民の方と関わる機会があった。地域に開かれた事業所として展開することはあまり行えなかった。	今後も地域の活動に参加したり、訪問行事等を取り入れていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを作成し、職員間で周知している。毎月避難訓練を実施する中で、訓練内容の見直しや整備を行っている。ドリーム通信やブログ等を通して周知している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に一度想定される災害において避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時には必ず細かな成育歴を聞き取り、その後発生したものに関しては報告してもらうようにし、職員に周知、事業所内各部屋に掲示して確認できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーの有無の聞き取りを充分に行い、事業所内で周知・提示している。契約後に発症したアレルギーに関しては、都度報告をもらっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、療育の安全管理、訓練内容や発生時の対応などを明記し、安全管理がされた中で療育を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画を作成し、マニュアル化しているが、家族への周知には至っていない。	家族への周知や連携が図れるように取り組んでいく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例を作成し、事業所内で共有している。事例があった場合には報告書にて全職員に周知し、再発防止に取り組んでいる。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、研修や虐待防止通信を発行している。虐待防止チェックリストで職員の関わりの困り感を把握するとともに関わり方の確認を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		支援計画にてやむを得ない身体拘束について記載し、保護者に説明を行い同意を得ている。また、拘束しない対応方法を常に検討している。		